



**2018年3月期第2四半期決算説明会**

**2017年(平成29年)11月17日**

**ネツレン**

**高周波熱錬株式会社**

# I 2018年3月期第2四半期 連結決算の概要

## II 経営実績の推移

## III 第13次中期経営計画の状況

## IV 新商品・新技術の開発、グローバル事業の展開

1

# 2018年3月期第2四半期 連結決算の概要

(単位:百万円)

	2016年 9月期 *	2017年 9月期 **	増 減	増減率 (%)	2018年 3月期予想
売 上 高	20,194	23,165	2,971	14.7	46,000
営 業 利 益	1,010	1,650	640	63.4	3,400
経 常 利 益	1,148	1,915	767	66.8	4,000
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	837	1,432	594	71.0	3,000

\* 2016年9月期は、2017年3月期第2四半期を示す。

\*\* 2017年9月期は、2018年3月期第2四半期を示す。

(注) 換算レート 17年度 1中国元=16.0円、1USドル=110.0円

## 2

## 2018年3月期第2四半期 連結決算(単独期間)の概要

(単位:百万円)

	2017年 3月期	2018年 3月期		前年同期比		直前四半期比	
	第2四半期	第1四半期	第2四半期	増減額	増減率(%)	増減額	増減率(%)
製品事業部関連事業	4,416	5,125	5,067	651	14.7	△58	△1.1
IH事業部関連事業	5,685	5,912	6,996	1,311	23.1	1,084	18.3
その他	31	30	32	1	4.4	1	5.8
売上高	10,132	11,068	12,096	1,963	19.4	1,028	9.3
製品事業部関連事業	293	459	295	2	0.8	△163	△35.7
IH事業部関連事業	205	367	500	294	142.8	133	36.2
その他	15	13	15	0	2.1	2	14.9
営業利益	514	839	811	296	57.7	△28	△3.4
経常利益	587	1,027	888	300	51.2	△139	△13.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,004	702	730	△274	△27.3	27	3.9

## 3

## セグメント情報(連結売上高)

(単位:百万円)

事業区分	主な製品	2016年 9月期	2017年 9月期	増 減	増減率(%)	2017年 3月期
製品事業部 関連事業	PC鋼棒 異形PC鋼棒 高強度せん断補強筋 高強度ばね鋼線	9,528	10,192	664	7.0	20,582
I H 事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置 自動車部品 建設機械部品	10,603	12,908	2,304	21.7	22,689
そ の 他	動産ならびに不動産に 係る賃貸事業および 上記以外の事業	61	63	2	3.3	124
合 計		20,194	23,165	2,971	14.7	43,396

## 4

## セグメント情報(連結営業利益)

(単位:百万円)

事業区分	主な製品	2016年 9月期	2017年 9月期	増 減	増減率(%)	2017年 3月期
製品事業部 関連事業	PC鋼棒 異形PC鋼棒 高強度せん断補強筋 高強度ばね鋼線	649	754	105	16.2	1,602
I H事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置 自動車部品 建設機械部品	331	867	535	161.4	1,342
そ の 他	動産ならびに不動産に 係る賃貸事業および 上記以外の事業	28	29	0	0.6	58
合 計		1,010	1,650	640	63.4	3,003

## 5

## 比較連結損益計算書

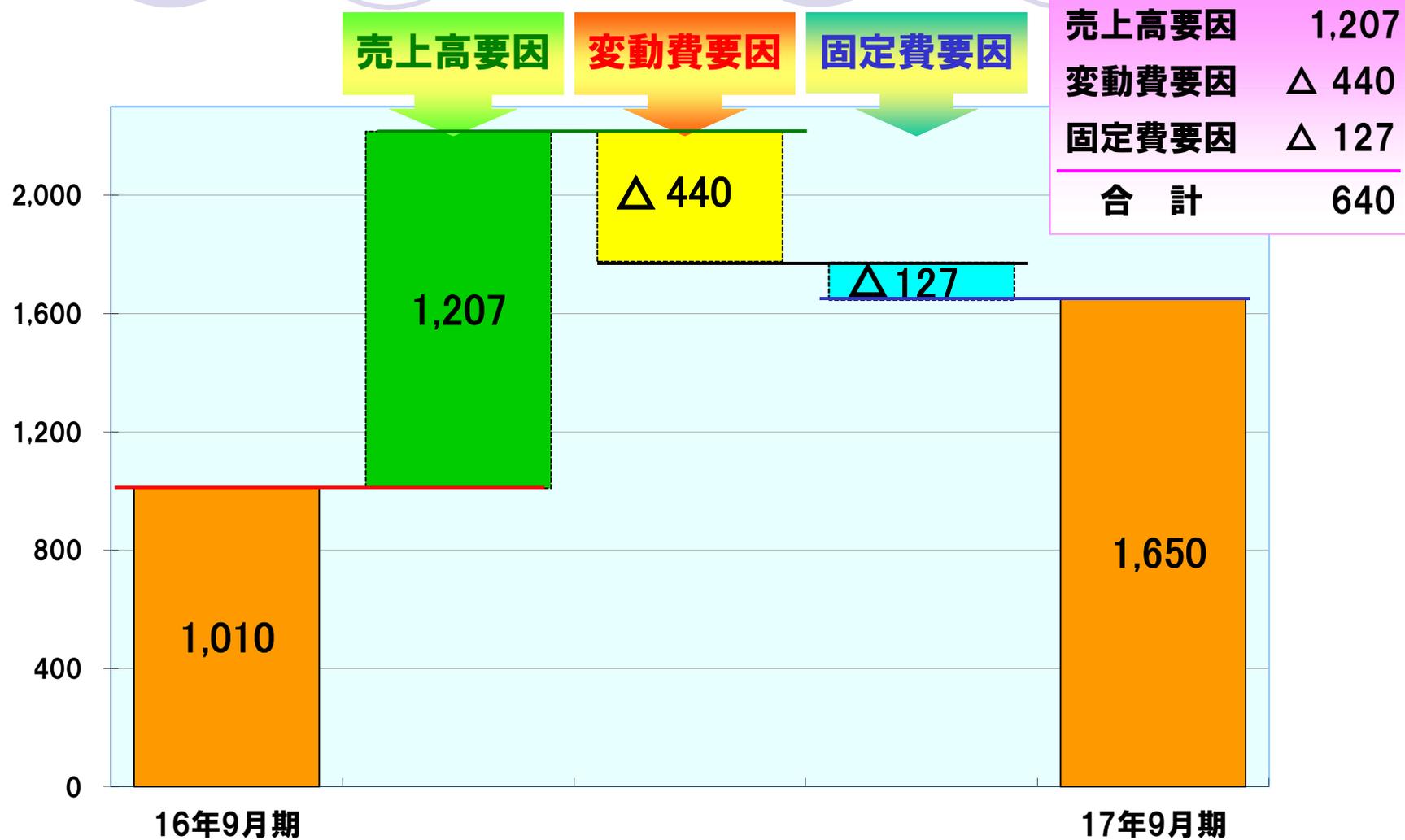
(単位:百万円)

科目	期別	2016年 9月期	2017年 9月期	増減	増減率 (%)	2017年 3月期
売上高		20,194	23,165	2,971	14.7	43,396
売上原価		15,610	17,851	2,240	14.4	33,147
売上総利益		4,583	5,313	730	15.9	10,249
販売費及び一般管理費		3,573	3,663	89	2.5	7,245
営業利益		1,010	1,650	640	63.4	3,003
営業外収益		290	287	△2	△1.0	673
営業外費用		151	22	△129	△85.4	87
経常利益		1,148	1,915	767	66.8	3,589
特別利益		4	1,480	1,476	-	232
特別損失		29	1,137	1,108	-	101
税金等調整前四半期(当期)純利益		1,123	2,258	1,135	101.1	3,720
法人税、住民税及び事業税		239	609	369	154.1	833
法人税等調整額		-	-	-	-	△209
四半期(当期)純利益		883	1,649	766	86.8	3,096
(内訳)						
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益		837	1,432	594	71.0	2,834
非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益		45	216	171	376.7	261

## 6

## 連結営業利益増減内容

(単位:百万円)

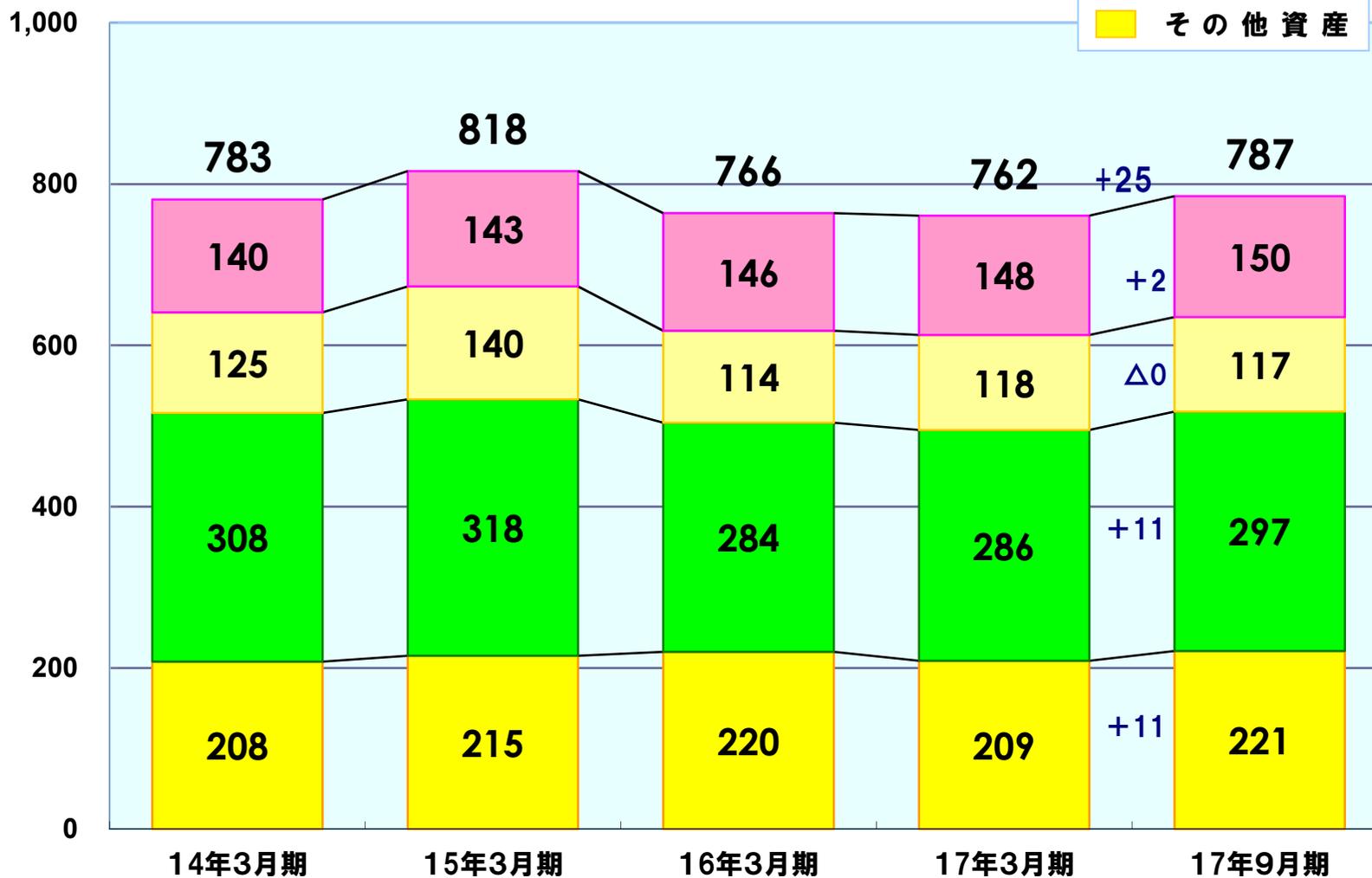


# 7

## 2017年9月期 資産残高の推移(連結)

(単位: 億円)

- 売上債権
- 有価証券
- 有形固定資産
- その他資産

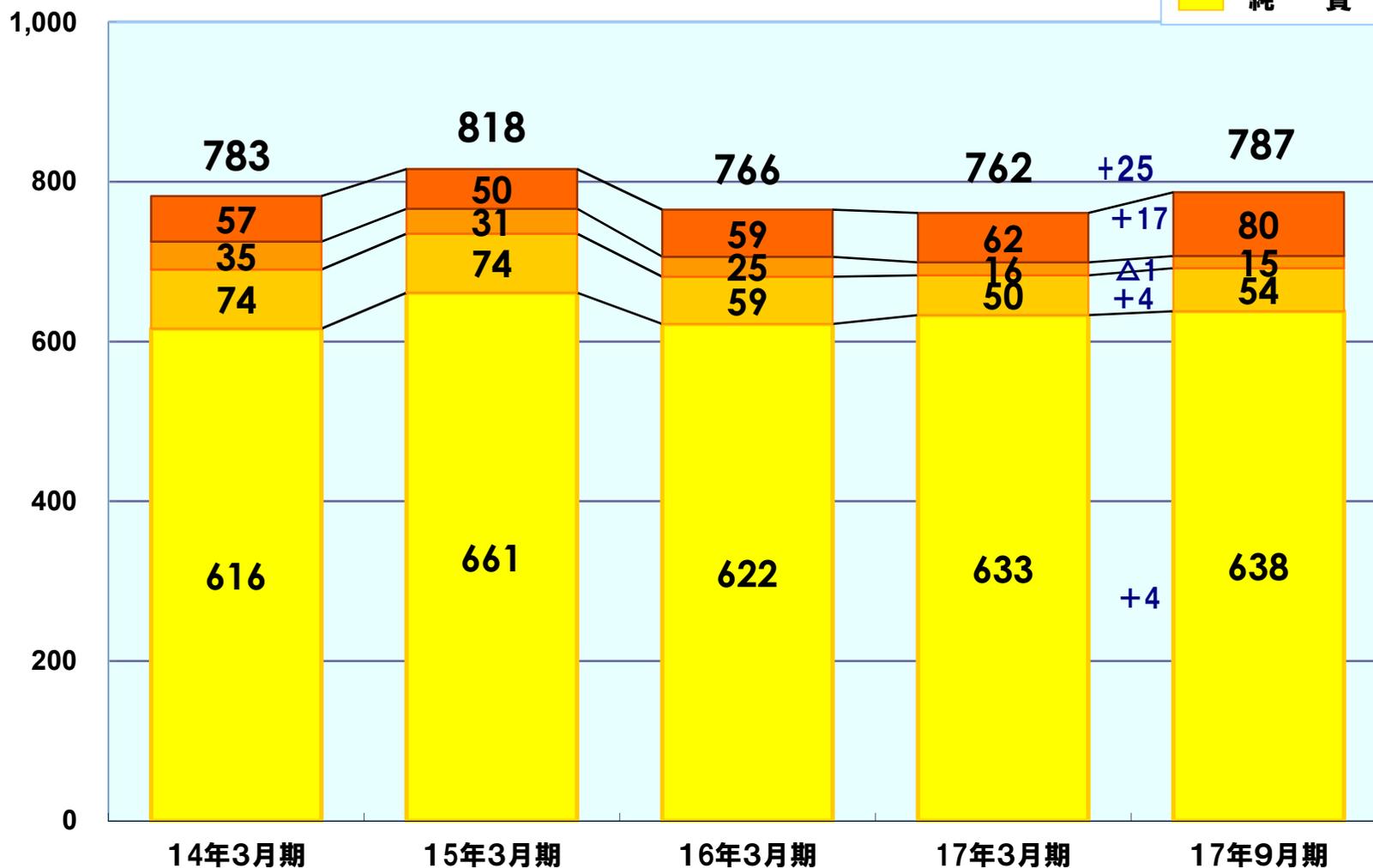


# 8

## 2017年9月期 負債・純資産残高の推移(連結)

(単位:億円)

- 仕入債務
- 借入金
- その他負債
- 純資産



## 9

## 2018年3月期第2四半期 キャッシュ・フロー(連結)

(単位:百万円)

科 目	2016年 9月期	2017年 9月期	対前年同期比 増 減	2017年 3月期
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,123	2,258	1,135	3,720
減価償却費	1,308	1,351	42	2,739
減損損失	-	1,134	1,134	11
段階取得に係る差損益	28	△1,221	△1,249	28
売上債権の増減	1,071	△94	△1,165	△433
仕入債務の増減	△370	1,688	2,058	368
その他	△1,052	△1,542	△489	△1,449
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,108	3,574	1,466	4,985
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,363	△3,096	△1,733	△3,263
フリーキャッシュ・フロー	745	478	△ 267	1,721
借入金	△375	△144	231	△ 861
自己株式の取得	△0	△683	△683	△872
配当金の支払額	△298	△749	△451	△ 596
その他	△108	△42	66	△ 258
財務活動によるキャッシュ・フロー	△783	△1,618	△ 835	△ 2,589
キャッシュ・フロー期末残高	13,752	12,077	△ 1,675	13,098

## 10

## 連結設備投資額

(単位:百万円)

	2016年 3月期	2016年 9月期	2017年 3月期	2017年 9月期	2018年 3月期 (予 想)
設備投資額	3,088	1,427	3,167	2,284	4,500
減価償却費	2,930	1,308	2,739	1,351	2,800

# I 2018年3月期第2四半期 連結決算の概要

## II 経営実績の推移

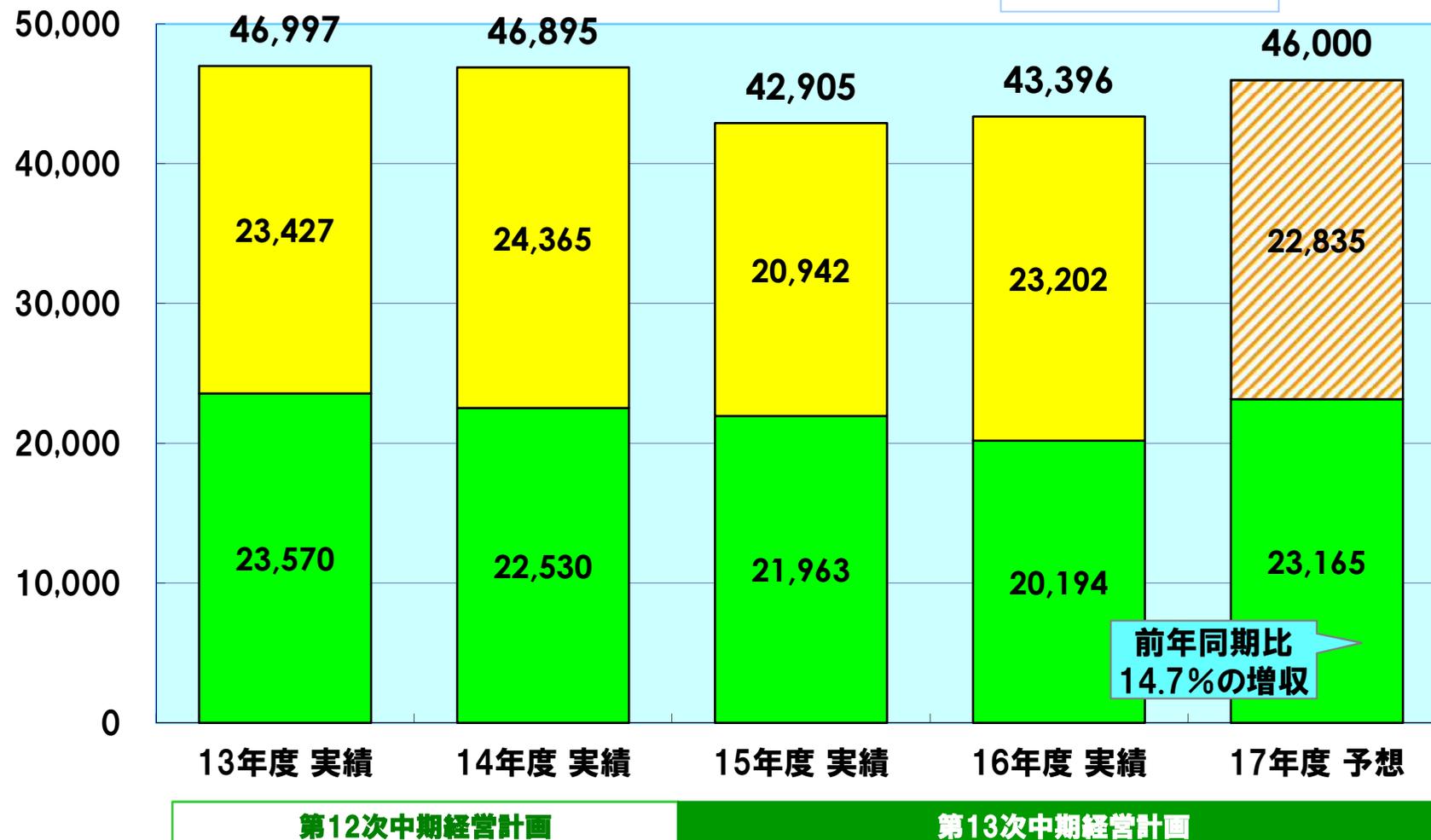
## III 第13次中期経営計画の状況

## IV 新商品・新技術の開発、グローバル事業の展開

# 11 連結売上高

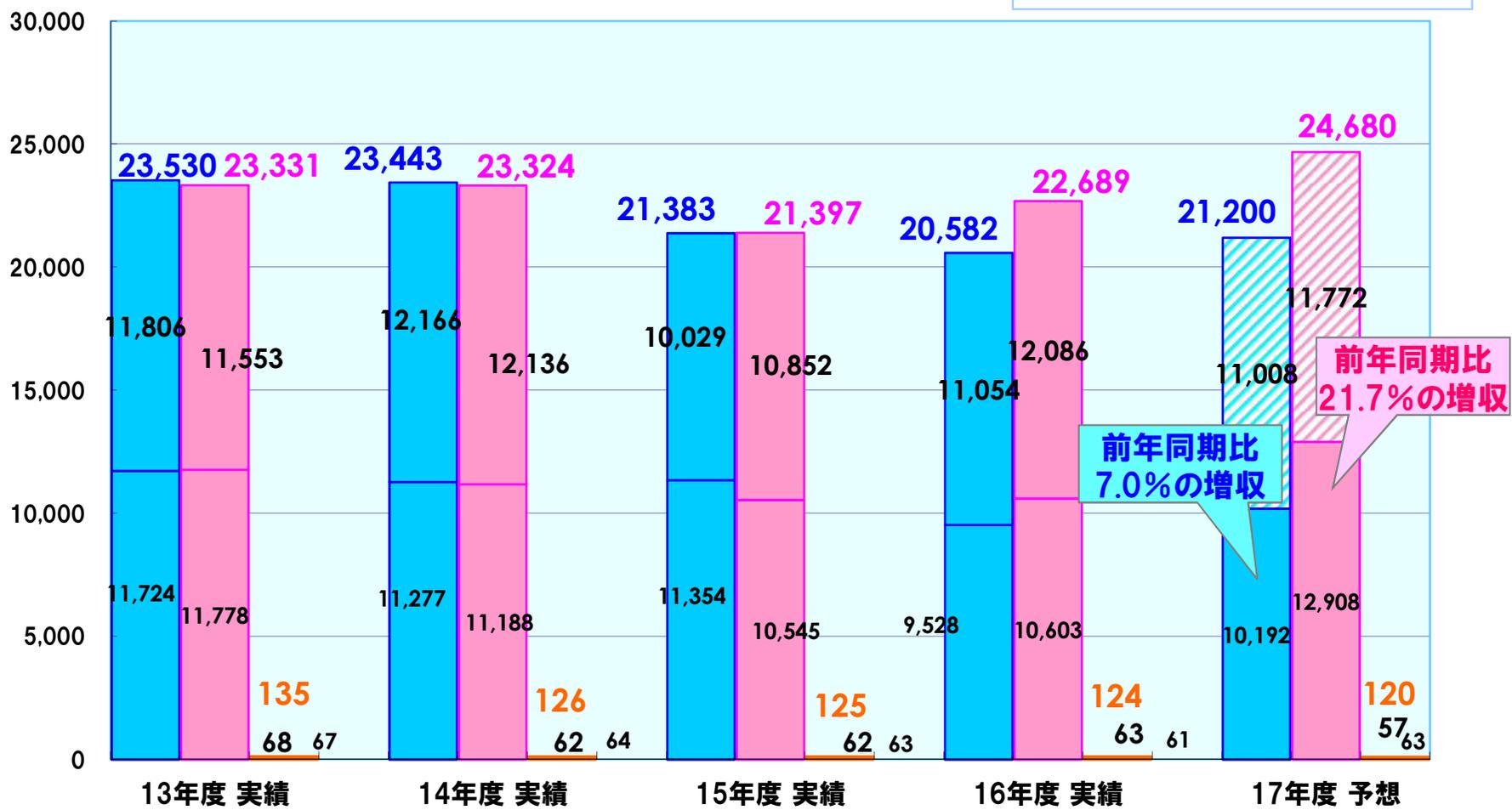
(単位:百万円)

■ 下期 売上高  
■ 上期 売上高



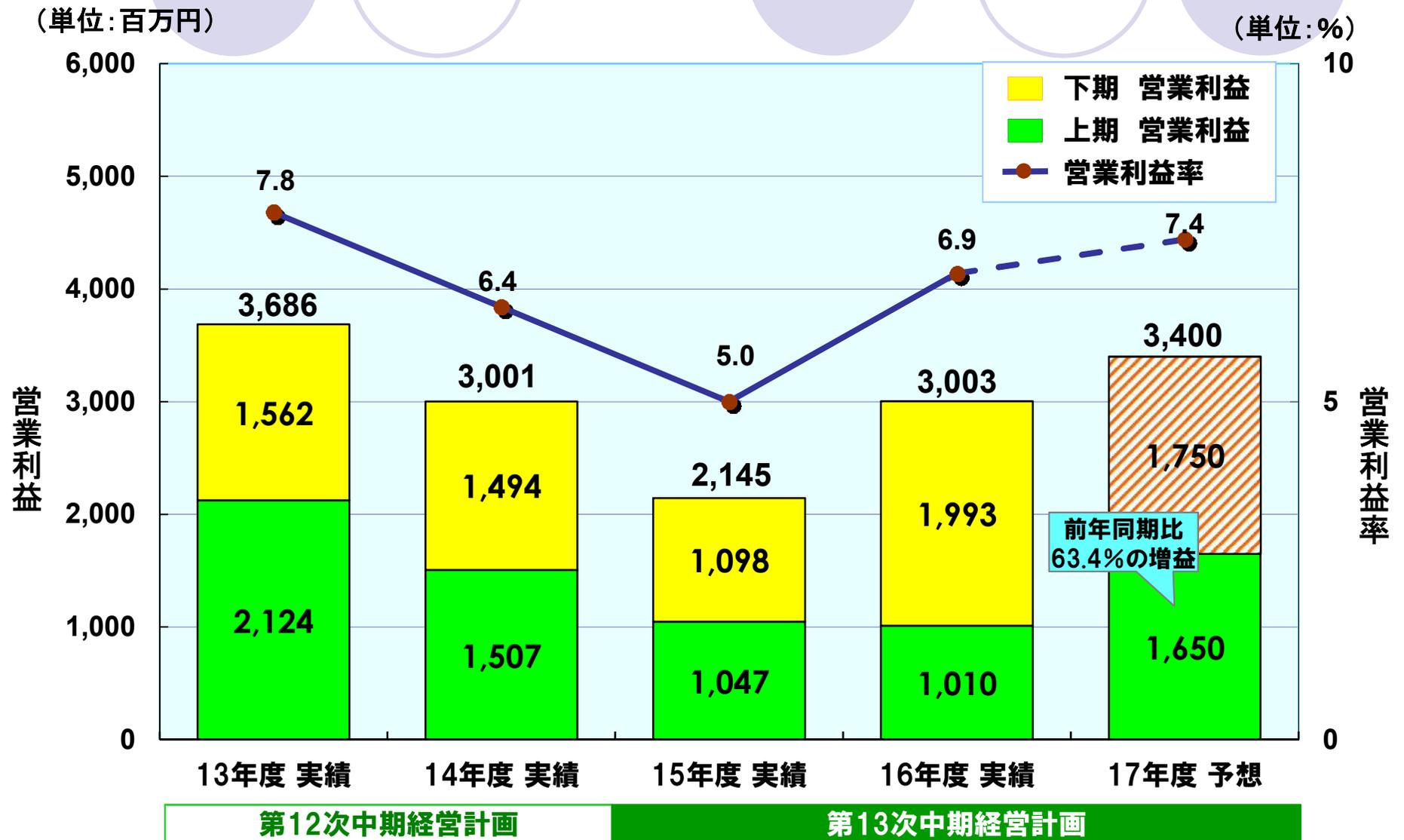
# 12 セグメント情報(連結売上高)

(単位:百万円)



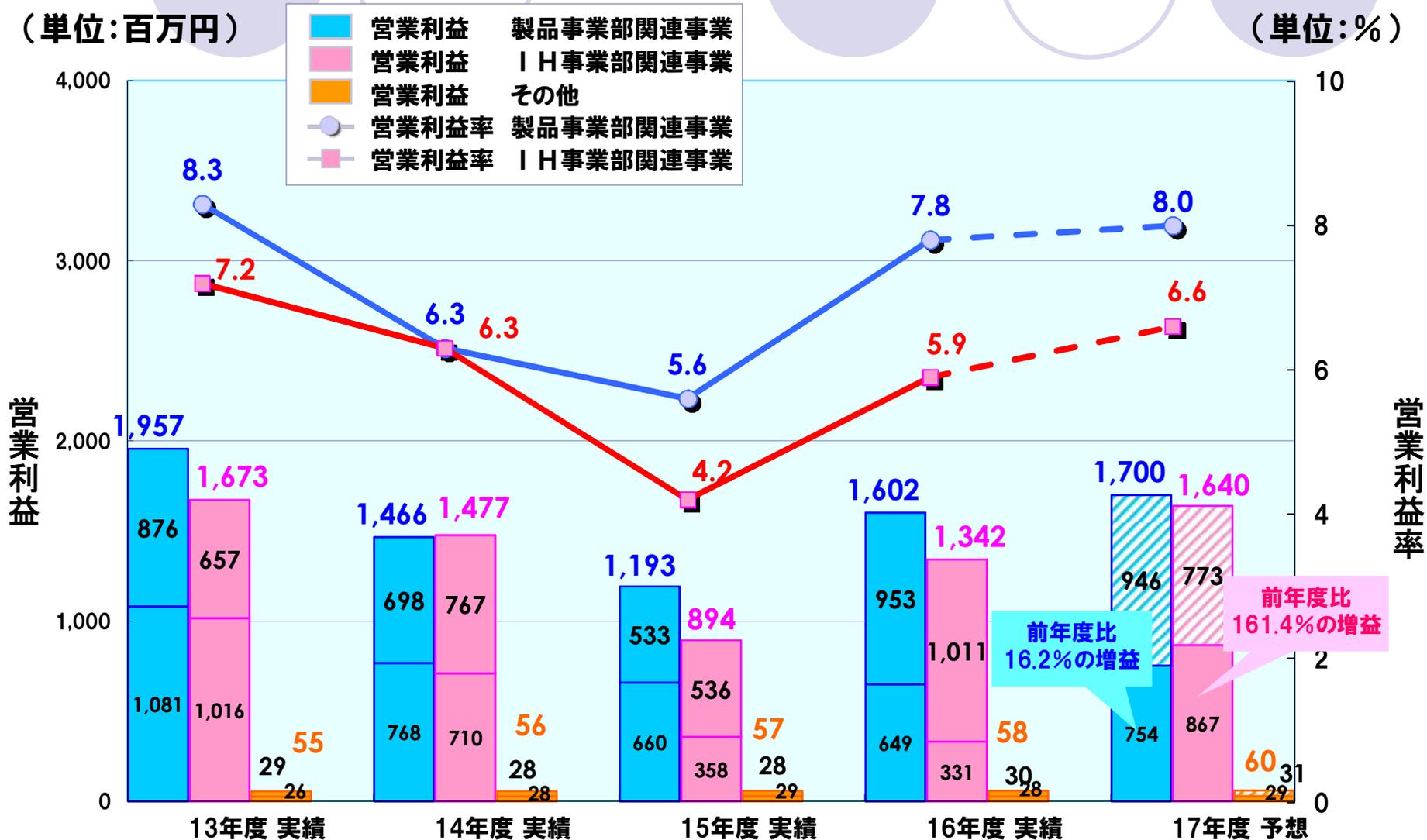
# 13

## 営業利益・営業利益率



# 14

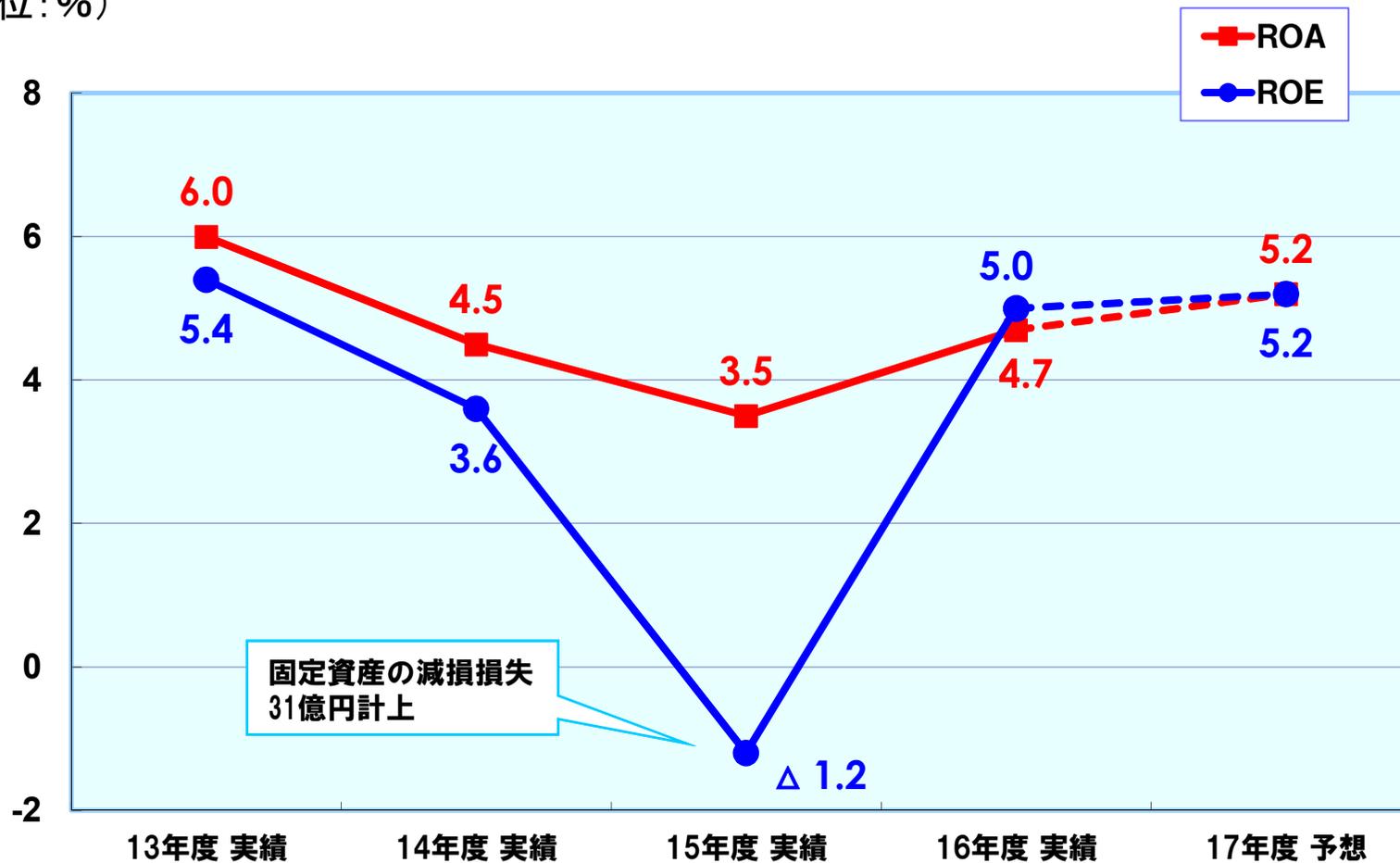
## セグメント情報(営業利益・営業利益率)



# 15

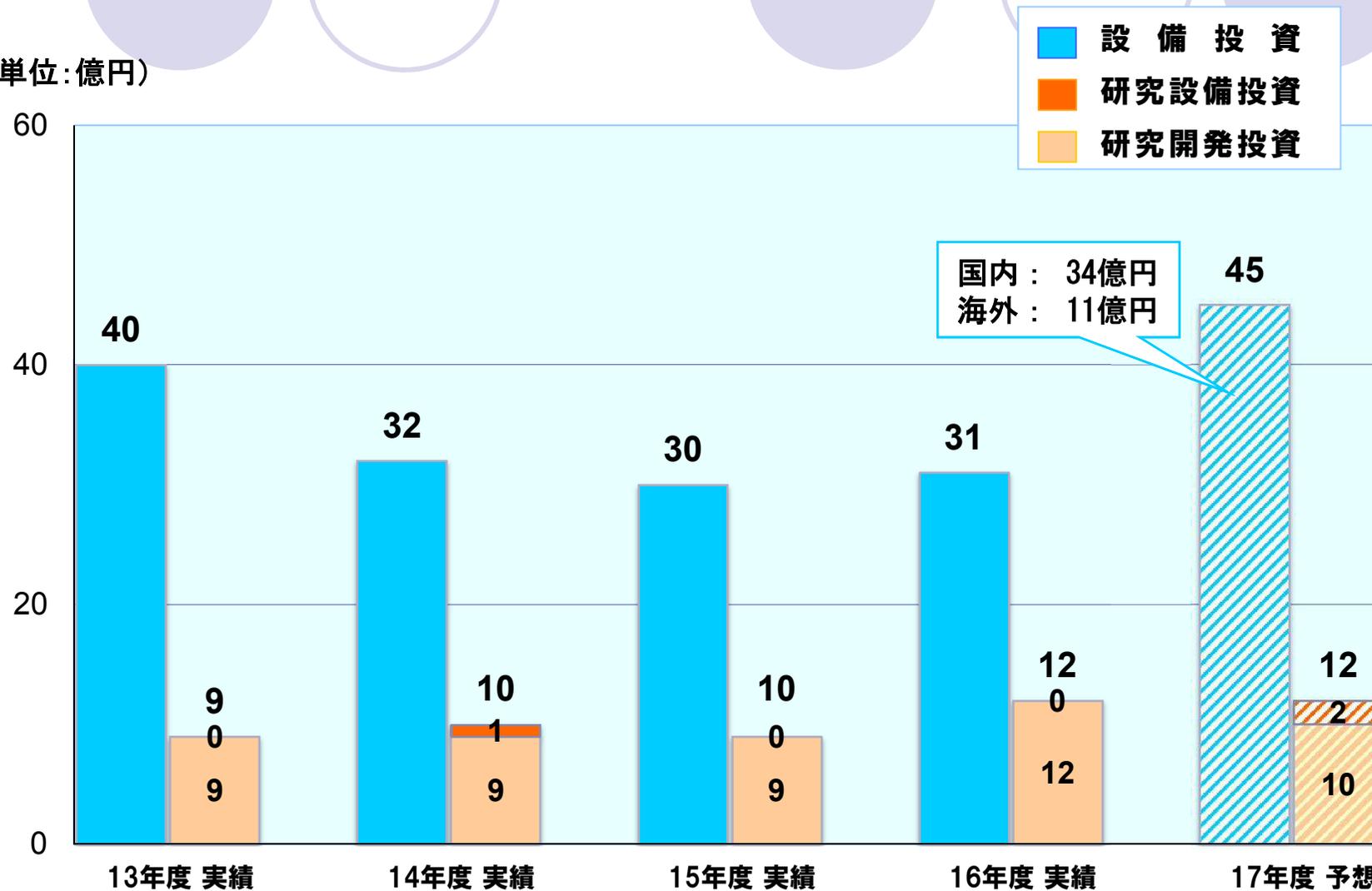
## ROA・ROE

(単位:%)



# 16 設備投資・研究開発投資

(単位:億円)

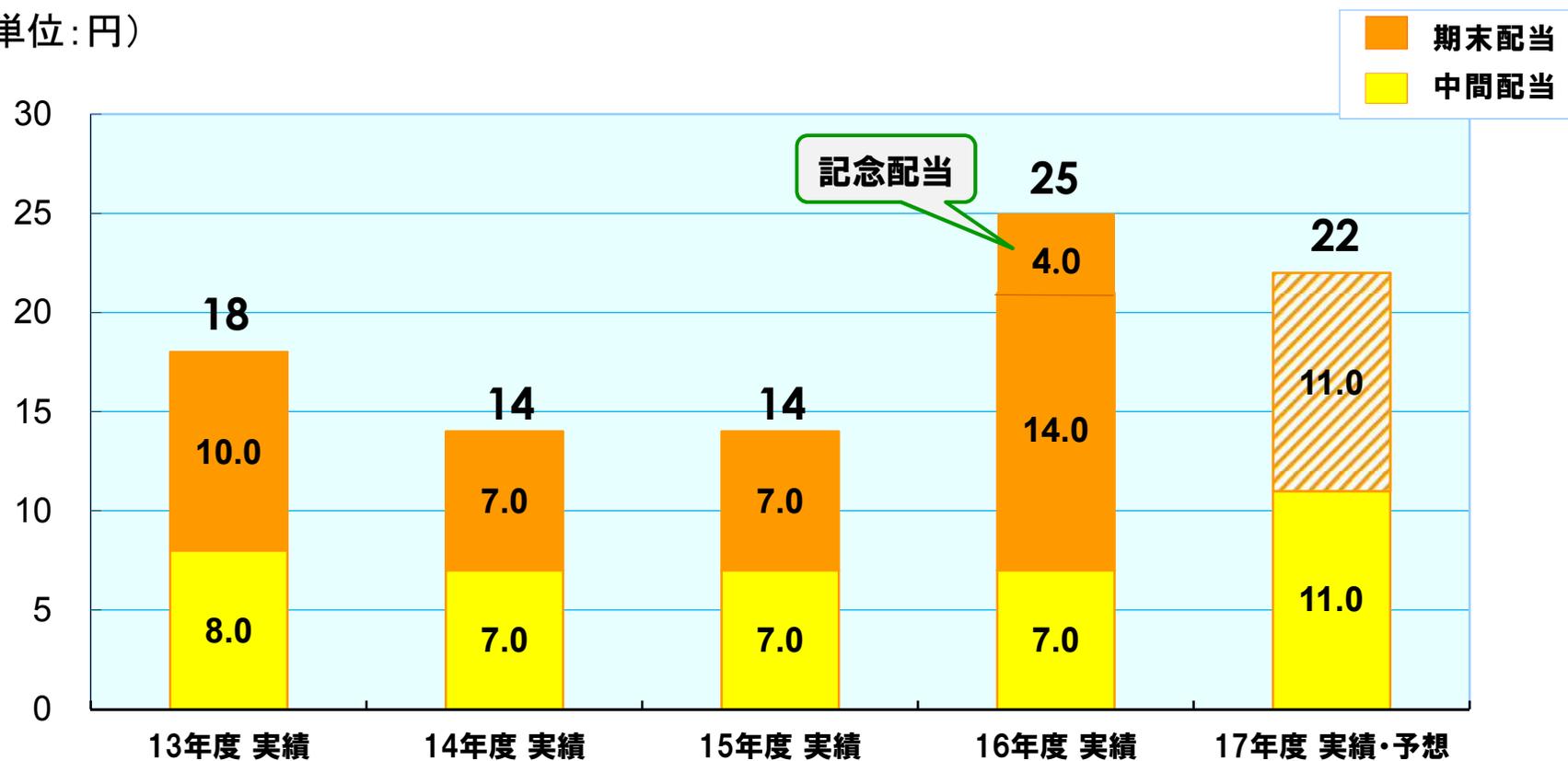


# 17 配当政策

## 基本方針

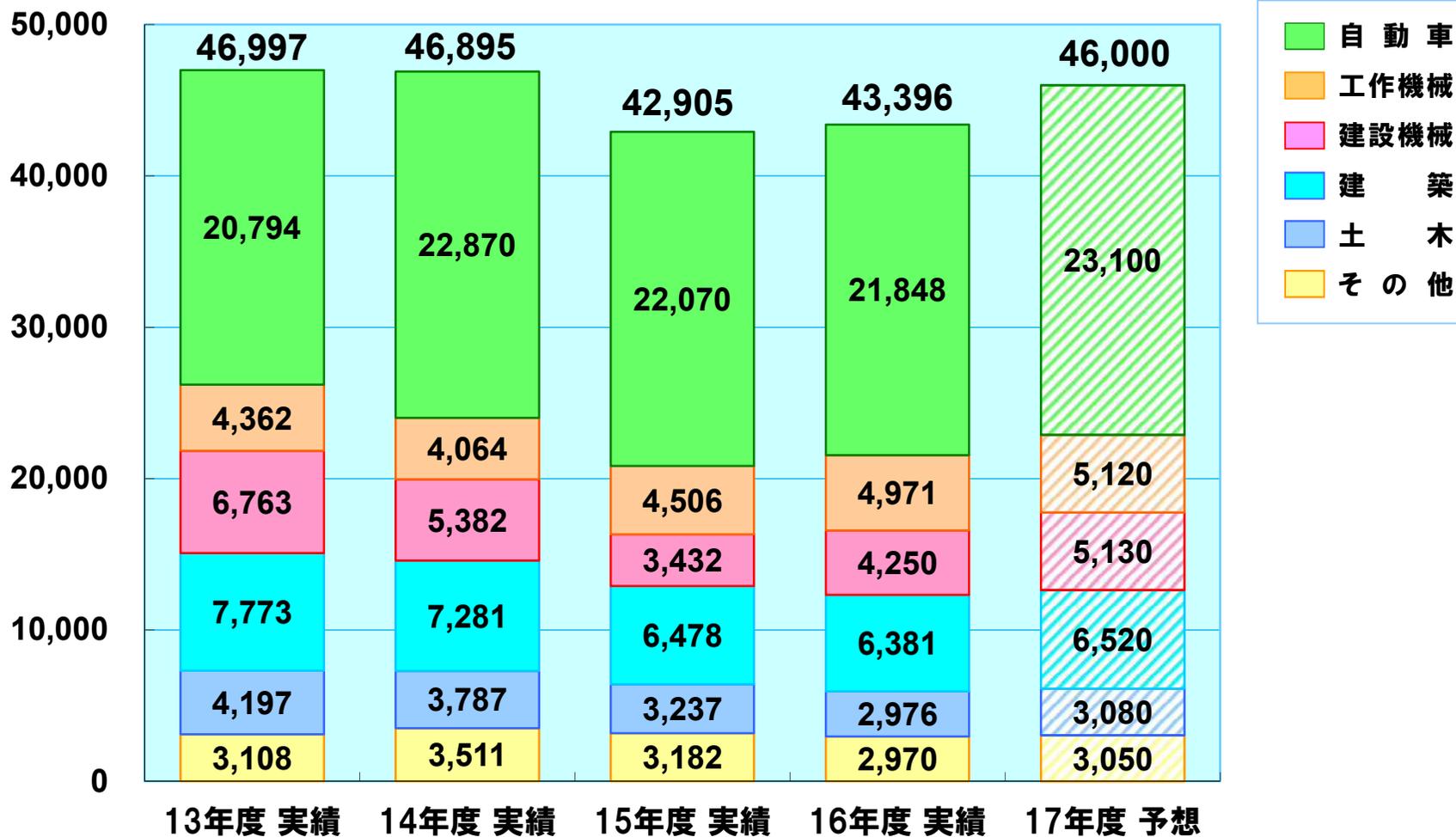
「安定した配当」を基本としており、当面、1株当たり年10円を下限とし、「業績に応じた利益配分」については、連結配当性向30%以上を目処としています。

(単位:円)



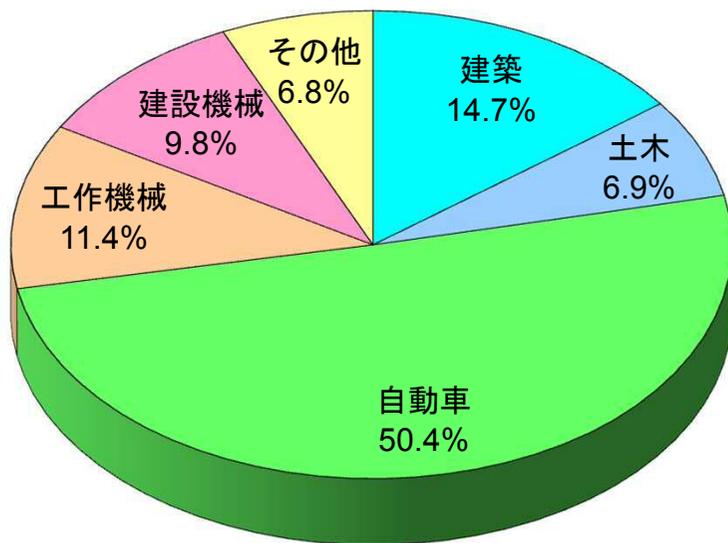
# 18 業界別売上高

(単位:百万円)

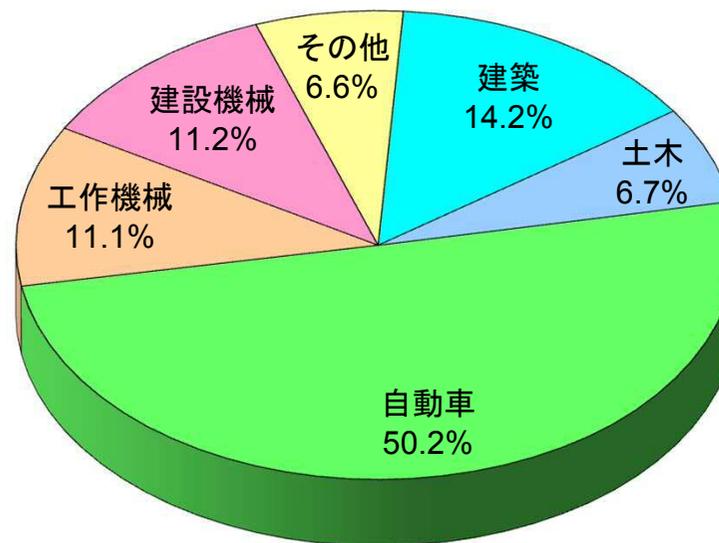


# 19 業界別売上高比率

## 2016年度実績



## 2017年度予想



# I 2018年3月期第2四半期 連結決算の概要

## II 経営実績の推移

## III 第13次中期経営計画の状況

## IV 新商品・新技術の開発、グローバル事業の展開

スローガン 「*Global Innovation 70th*」

(グローバル イノベーション セブンティース)

設立70周年(2016年5月)を迎えて、「経営」「技術」「生産」「機能」「人づくり」に関する果敢な革新の推進

当社グループを取り巻く事業環境が当初計画立案時から大幅に変化していることをふまえ、昨年見直しを行った Netzengroup 第13次中期経営計画「*Global Innovation 70th*」に対する予想は以下のとおり。

## (連結経営目標)

	見直し後の計画	2018年3月期予想
売上高	460億円	460億円
営業利益	34億円	34億円
営業利益率	7.4%	7.4%
ROA(総資産経常利益率)	5.1%	5.2%
ROE(株主資本純利益率)	5.6%	5.2%

**I 2018年3月期第2四半期 連結決算の概要**

**II 経営実績の推移**

**III 第13次中期経営計画の状況**

**IV 新商品・新技術の開発、グローバル事業の展開**

## 21 新商品・新技術開発(1) “ダブルスターク”

ダブルスターク(部分高強度鉄筋)は2018年に「リーフィアタワー 海老名アクロスコート」(地上31階免震建物:三井住友建設(株)殿 設計・施工)へ採用決定

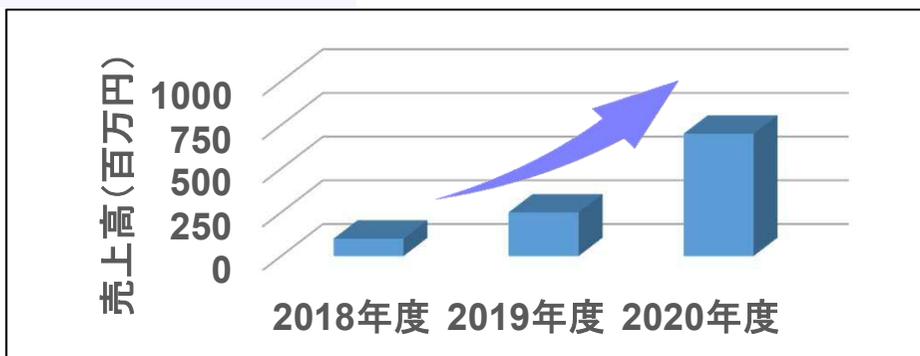
### 【今後の展開】

#### 1) さらなる耐震安全性の向上

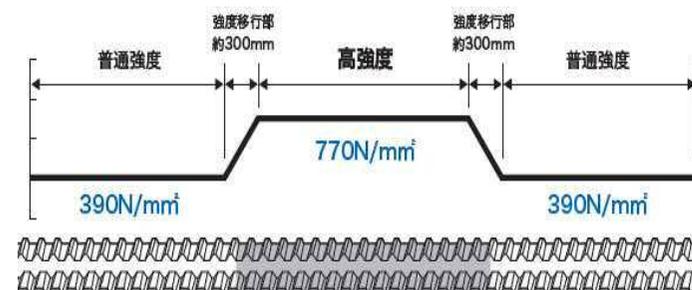
大地震時にダブルスタークの普通強度部で降伏させて地震エネルギーを吸収する工法の開発

#### 2) ダブルスタークの特長を最大限に生かした工法の標準化を目指す

### 【売上高予想】



完成イメージ図

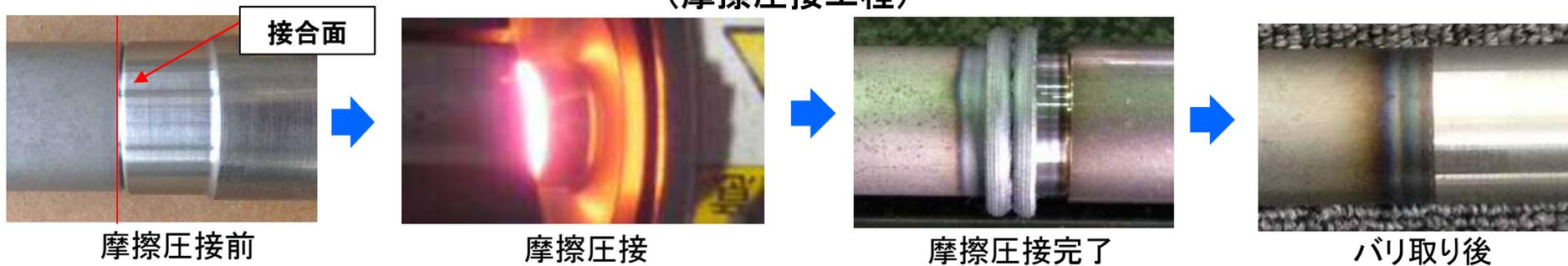


## 22 新商品・新技術開発(2) “中空ラックバーの摩擦圧接技術”

摩擦圧接とは・・・摩擦を利用する接合技術

- ・ 機械的な回転による摩擦熱を利用し、摩擦面を接合する技術
- ・ クリーンで省エネルギーであり、異種材料接合や軽量化複合材料の創製が可能

(摩擦圧接工程)



◆摩擦圧接技術を用いてデュアルピニオンEPS用ラックバーを量産

中空ラックバー + 中実ラックバー ⇒ **ハイブリッド型ラックバー**

◆従来のデュアルピニオンEPS用ラックバーと比較し

- ・パイプ材を使用することによる軽量化効果大
- ・歯諸元VGR対応可能

中空ラックバー

摩擦圧接部

中実ラックバー



## 23 新商品・新技術開発(3) “DHを用いたホットプレス技術”

DH(直接通電加熱)を用いて焼入硬化部を任意に設定できるホットプレス部品の製造を可能にし、新たな発想による自動車骨格材の設計と製造を実現する技術

### 1. ネットン独自のDHシステム

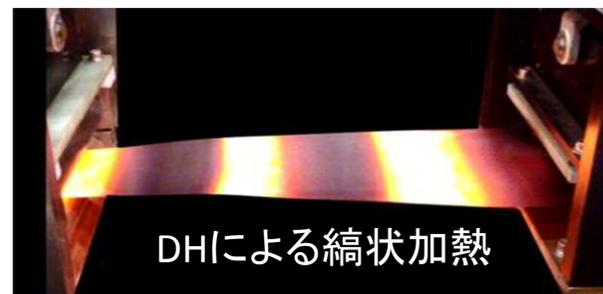
- ・ 移動電極により異形状板材を均一加熱
- ・ 必要な部位を焼入硬化できる部分加熱

### 2. DHの利点(従来の炉加熱との比較)

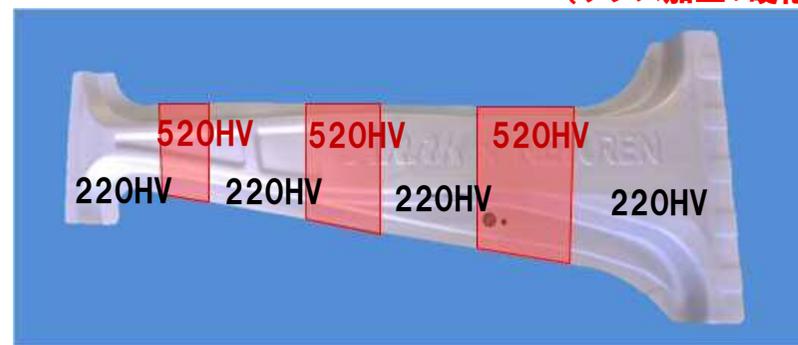
- ・ 短時間加熱(生産性向上)
- ・ 酸化スケール少
- ・ 高加熱効率
- ・ 省スペース
- ・ 環境への優しさ(CO<sub>2</sub>削減)

次世代の自動車軽量化ニーズを実現する  
ホットプレスへの適用拡大に向けて開発中

DH: Direct Resistance Heatingの略で被加熱物に通電し、その物体の内部抵抗により発生するジュール熱を用いて加熱する方法



ホットプレス  
(プレス加工+硬化)



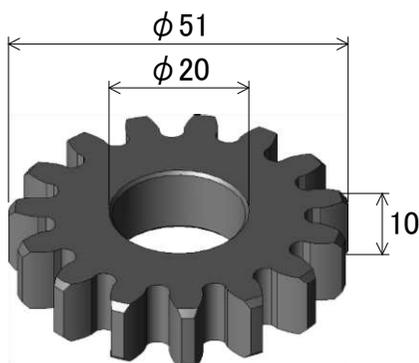
縞状部分硬化したセンターピラー部品  
(株)アーク殿と共同開発

## 24 新商品・新技術開発(4) “IH熱処理シミュレーション技術”

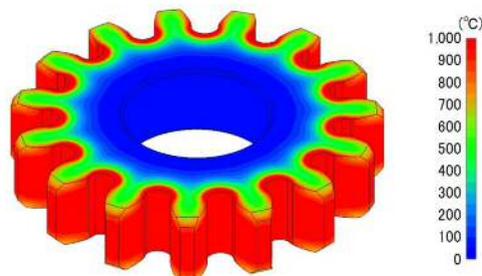
- 有限要素法による磁場と熱処理(熱伝導-金属組織-弾塑性)の連成解析によるIH熱処理シミュレーション・システムを開発
- 温度や金属組織分布だけでなく、焼入変形量や応力分布も高精度予測可能 ⇒ 高品質な熱処理条件の提案が可能

### 【期待効果】

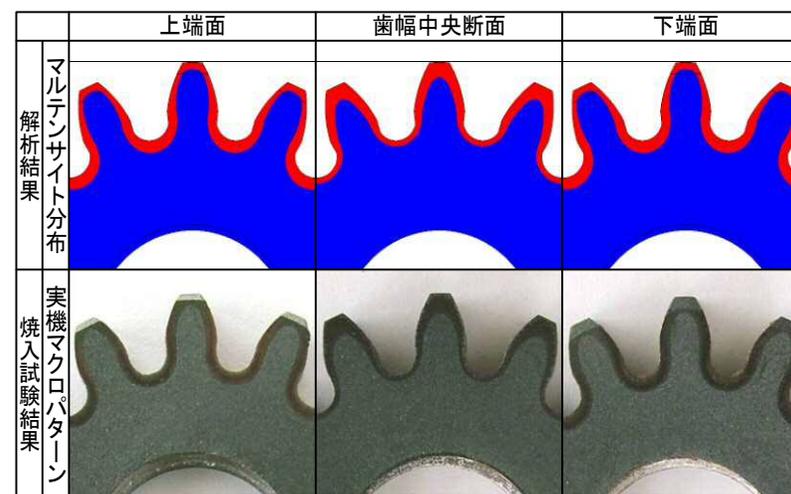
- 試作回数の低減や開発・設計期間の短縮
- 熱処理品質向上のための最適な熱処理条件設定
- 熱処理不具合の事前回避



ワーク



加熱終了時の温度分布

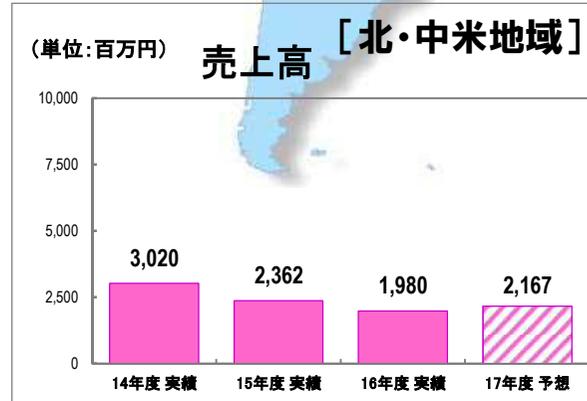
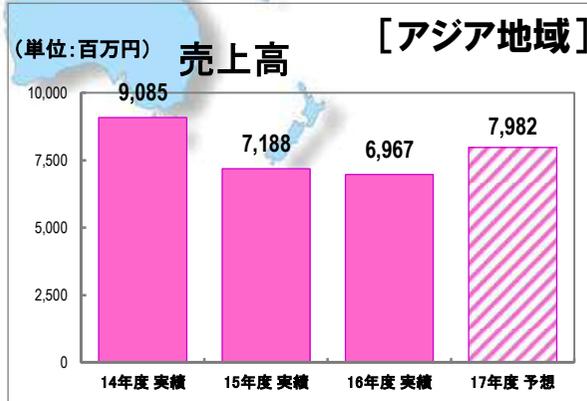
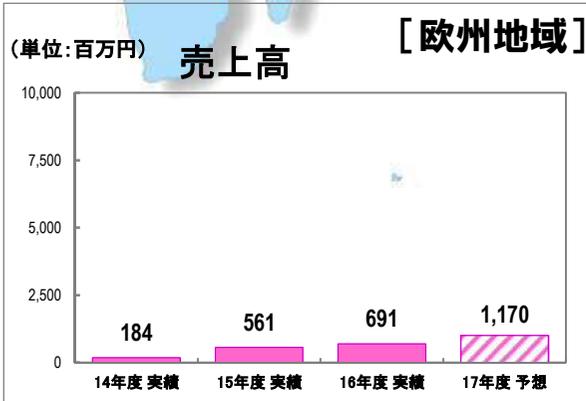


試験結果との比較: 焼入れパターン

# 25 グローバル事業の展開

## “海外事業展開の状況”

6カ国 10社（子会社）



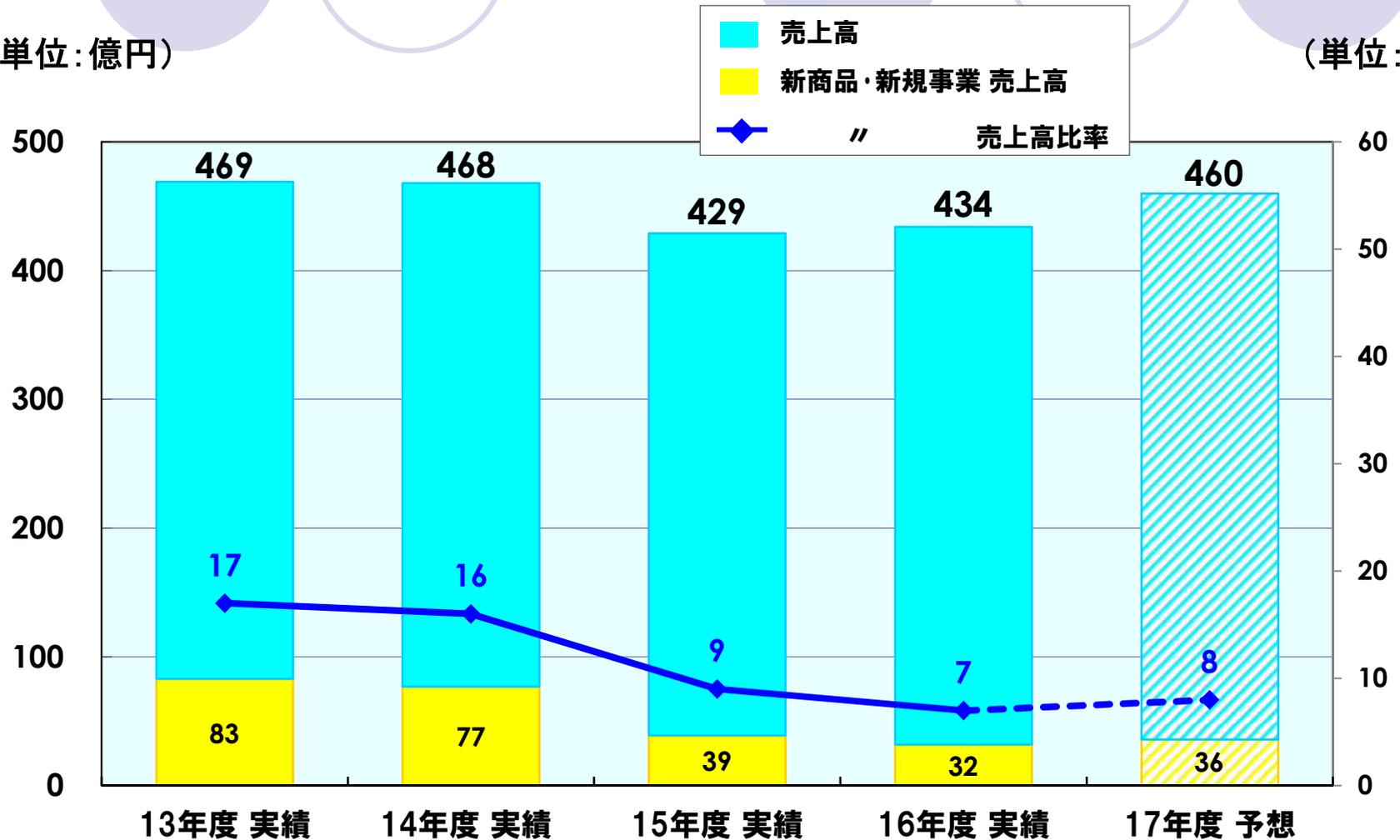
※グループ内取引を含む。  
 ※日本からの輸出は含まず。



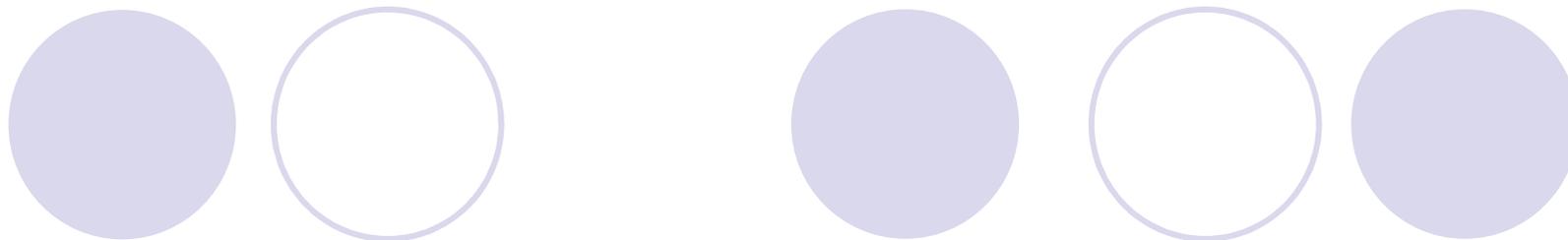
# 26 新商品・新規事業売上高

(単位:億円)

(単位:%)



※新商品・新規事業売上高は、ネットレン新商品・新規事業売上基準による。



**(注)当資料に記載の将来に関する予想数値は、公表時点において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により開示した予想数値と異なる場合があります。**